

阪神地域の現状と課題

【将来人口】

2020 年を基準とすると、2050 年の人口は兵庫県では 1,212 千人 (22.3%) 減少し、阪神地域では 284 千人 (16.2%) の減少となると予想される。

(『データでみる阪神地域』 「2 人口」より)

【阪神地域の魅力・地域資源】 ヒアリング調査・アンケートの実施状況より

<ul style="list-style-type: none"> ・日本遺産に認定された「伊丹諸白」と「灘の生一本」。 ・下り酒が生んだ名醸地である伊丹と灘五郷。 ・経済力と文化力により、独特の風土を作り上げてきた歴史。
<ul style="list-style-type: none"> ・小林一三が夢見た、壮大なロマンが感じられる摂津京。
<ul style="list-style-type: none"> ・阪神モダニズムの影響を受けた風光明媚な場所での文化発表は魅力の一つ。京都・奈良等の歴史ある街に近いことから伝統的な文化に対する興味は人々の中に自然に宿っている部分もある。古くから人が住み都市が形成されたことで歴史ある文化が残っており、地理的にも大阪・京都などの玄関口であり様々な文化が栄えていたことが感じられる。
<ul style="list-style-type: none"> ・住み続けている人と他から来た人が混じり合い、許容力がある。 ・外国人との付き合い、つながりにもよい影響をもたらす。 ・ボランティアが自然と集まり、活動できるベースになっている。
<ul style="list-style-type: none"> ・女性の起業家、意欲、スキルが高い人が多い。
<ul style="list-style-type: none"> ・学生 ・日本酒 ・酒蔵
<ul style="list-style-type: none"> ・南の子供達を北の自然の中で遊ばせたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・山と海に挟まれた文教地区が多い閑静な住宅街
<ul style="list-style-type: none"> ・芦屋や宝塚などに代表され、比較的ブランド力が高い地域であること。 ・比較的治安が良い。
<ul style="list-style-type: none"> ・多様な観光地があり (宝塚大劇場・甲子園球場など)、臨海部や基幹道路、空港周辺には工業団地や物流施設が集積している。 ・鉄道インフラが充実しており京阪神や空港へのアクセスが良いので、都市部流出を抑制し、地域の活性化の一翼を担っている。
<ul style="list-style-type: none"> ・利便性と自然のバランスが素晴らしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・産業・文化・自然が混在し、交通の便が良い。 ・観光、居住の両方に合った、落ち着いた環境が整っている。

【阪神地域の課題】 ヒアリング調査・アンケートの実施状況より

<ul style="list-style-type: none">・ 阪神地域南部(都市部)と北部(山間部)の空き家問題に対する意識の違い。・ 南部は一般的に「売れやすい地域」であり、空き家問題に関しても流通に関することより相続や隣地トラブルによるものが多い。
<ul style="list-style-type: none">・ 南部には大型商業施設や大病院が集中し便利だが、北部には南部のような施設が近辺になく不便である。買い物難民の対策が必要。
<ul style="list-style-type: none">・ 里山は財産だが、人の手が上手く入り、加工して収入になるなど、生産性を生み出すようになれば、人の意欲につながるのではないか。
<ul style="list-style-type: none">・ 高齢者の交流の場が減少し、街角での交流が必要。・ 交流のために植木やベンチが必要。
<ul style="list-style-type: none">・ 地域住民の高齢化・ 大雨の異常気象による川の氾濫や土砂崩れなど大災害の発生・ 大地震の恐れ
<ul style="list-style-type: none">・ 市・町をまたいだ人材の育成や登用ができるよう、様々な情報通信技術を活用した取り組みが必要である。
<ul style="list-style-type: none">・ 研究機関となる大学が阪神間にない。・ スーパーコンピュータ、スプリングエイトといったものがない。
<ul style="list-style-type: none">・ 日中のボランティアがシニア・ 空きスペースを確保するのに費用がかかる。
<ul style="list-style-type: none">・ 地域で活動する若い世代がいない。・ 地域の祭りの減少。・ 自治会の役員が高齢化。・ 祭りの設営など民間委託の検討すればよい。
<ul style="list-style-type: none">・ 都市部、農村部、住宅地域、商工業地域等、非常に変化に富んでいるので地域にあったきめ細やかな対策、 施策が必要である。
<ul style="list-style-type: none">・ 住みたいまちランキングで上位に名を連ねる西宮市や芦屋市といった地域が、住んで良かったまちランキングでは出てこないことから、事前期待度を上回る施策が打てていない。
<ul style="list-style-type: none">・ 道路の慢性的渋滞(阪神高速、尼宝線等)・ 大阪・京都と比較し、旅行者が少ない(観光資源が少ない)・ 南海トラフ地震時の被害が東西の広範囲に渡って影響する。
<ul style="list-style-type: none">・ 人口減少や高齢化が進む農村部や傾斜が多い山手地域では、生活に必要不可欠なものとして、誰もが移動しやすい交通環境が求められているが、バスの利用者の減少により、交通事業者の経営状況が圧迫され、路線の維持が困難となっており、危機的な状況である。
<ul style="list-style-type: none">・ 住宅都市としての側面が強く、観光を核とした地域経済の活性化が進まないこと。

(参考) 兵庫県及び阪神地域における人口の状況

区分	①:2020年人口(千人)	②:2050年人口(千人)	③:②-①(千人)	増減率:③/①×100(%)
兵庫県	5,443	4,231	▲ 1,212	▲ 22.3
阪神地域	1,752	1,468	▲ 284	▲ 16.2
阪神南地域	1,033	878	▲ 155	▲ 15.0
尼崎市	450	395	▲ 55	▲ 12.2
西宮市	488	405	▲ 83	▲ 17.0
芦屋市	95	78	▲ 17	▲ 17.9
阪神北地域	719	590	▲ 129	▲ 17.9
伊丹市	200	189	▲ 11	▲ 5.5
宝塚市	225	188	▲ 37	▲ 16.4
川西市	153	110	▲ 43	▲ 28.1
三田市	111	82	▲ 29	▲ 26.1
猪名川町	30	21	▲ 9	▲ 30.0

※県ビジョン課推計値を基に作成。